

● 顕現後第六主日

# 泉のほとり

今月の詩編「第二十四編」

栄光に輝く王とは誰か。

万軍の主、

主こそ栄光に輝く王。



## 主の導きの中で

かつて教会を激しく迫害していたパウロ。主は彼を「異邦人や王たち、イスラエルの子らにわたしの名を伝えるために選んだ器」として召されました。長年、

同胞たちの中で生活し、主を否定する者たちのもの見方や考えもよく知っていたでしょう。パウロこそ、イスラエルの民への伝道に適しているように見えます。

しかし、ダマスコの会堂で宣教を始めると、かつての迫害者が一転してキリストを証しする姿に人々は驚愕し、やがてユダヤ人たちは彼を殺そうと企てます。弟子たちの助けにより、ダマスコから脱出しました。

その後エルサレムでも、同胞たちに伝道を為していきます。当時、最高の教師ガマリエルの元で学び、聖書に精通していたため、正しく、的確にイエスのことを論証します。しかしユダヤ人からすれば、パウロに歯が立たないと苛立っていたのではないのでしょうか。伝道すればするほど、人々の殺意は燃え上がり、エルサレムには張り詰めた空気が漂いました。ガラテヤの信徒への手紙によれば、滞在はわずか15日間。その短期間で殺害計画が立てられるほどの騒動となり、教会は彼を故郷タルソスへと送り出します。

使徒言行録9章にはこの出来事の詳細は書かれていませんが、22章にあるパウロの証言によれば、彼が神殿で祈っていた際、主は「急げ。エルサレムを去れ」と命じました。しかし彼は「私が迫害者だったことを誰もが知っています」と言い、主に食い下がります。自分こそユダヤ人伝道に適任だという強い確信とこだわりを持っていたことが伺えます。しかし主は「行け。わたしはあなたを異邦人のために遣わす」と告げたのです。

パウロが主の言葉に従い、こだわりを捨て、エルサレムを離れた結果、教会には平和が訪れ、聖霊の助けによって基礎が固まり、ますます成長していきます。パウロ自身も、異邦人が多く集まるアンティオキアの教会を拠点として宣教の良い実を結んでいきます。さらに、3回にわたる伝道旅行へと遣わされ、異邦人にまで福音が届けられていきます。かつて「地の果てに至るまで私の証人となる」と言われた主の言葉が実現していくのです。

こうした初代教会発展の経緯は、教会が伝道を為していく上で、重要なこと、必要なものが何かを教えてください。優れた能力や知識、あるいは人間的な熱心さがあれば、伝道は必ず進んでいったわけではありませんでした。パウロが主の導きや御心や言葉に従って行き、置かれたところに身を置くことで、宣教は進んでいったのです。必要なのは、そうした主の導き、主がなさろうとしていることに教会が心を開いていくことです。

しかしながら、「これが最善の方法だ」「こうあるべきだ」という強いこだわりを持つことは、時として主の自由な働きを制限し、宣教を妨げる恐れがあります。神ではなく、人の思いやわがが中心になり、主がなさるとされる新しい御心が見えなくなってしまうのです。

伝道は神、主イエスがなさるわざです。主は教会全体と個人の状況をすべて見据え、人を最もふさわしい場所に置かれます。教会が伝道を共に進めていく上で必要なのは、自由で柔らかな心です。今、何かに固執して主の声を聞き逃してはいないか。常に自らをかえりみつつ、主の前に心を開いていきましょう。教会がその心を携え、主の言葉に従って歩むとき、主は伝道のわざを前進させてくださると信じて歩んでいきたいと思えます。

(使徒九章一九〜三二節 宮間彰広兄)

## 《四国便り》(再掲)

前回の証し文には、たくさん間違いがありました。ご本人の意向により、今回は原稿の事実通りに記載いたしました。今回のことを深くお詫び申し上げます。

※経緯については末尾をご覧ください。

「主のゆりかごの中で」

「冬来たりなば春遠からじ」と冬將軍の舞い降りる二月を迎えました。主人、田端剛爾は只今、総合病院に入院中であります。主なる神様は愛する御自分の羊が弱り果てた時、その悲しげな声を聞かれ、「悩みの日に我を呼べ。われ汝に答えん。しかし汝はわが名を賛えるであろう。」このお約束どおりを実現されました。そのお証をさせていただきたいと思えます。四年間の介護が終り、かねてより予約していた老人ホームに昨年の九月十五日に(敬老の日)入居致しました。ところが、その翌日に飲んだ牛乳で誤嚥となり救急車で運ばれ私は病院からの電話ですぐに駆けつけました。ベッドの上で苦しげにものがいている主人を両側から二人の看護婦さんが押さえつけて何かの処置をしている様でした。別室で待つていると二時間後にやっと麻酔の取れはじめた主人と対面できました。もがいていた姿を一瞬でも目撃しておりましたので「苦しかったでしょう。痛い思いをしたでしょう。」と言うと主人は「うん」と答えました。「私が誰か判りますか?」との問いに「良恵さんでしょう」と答えてくれましたので、ここから先は安静第一と帰宅したのでした。

主治医が病名は「心不全」であり喘息の持病は?と尋ねられました。これ迄心臓の不安もなく喘息

とは無縁でした。しかし老人ホームで誤嚥を見つけた時、すでにぜいぜいしており酸素の量を計ると通常の半分で驚いて救急車を呼んだとの話を聞き私は全てを悟りました。約二〇分間の発見の遅れにより悪い連鎖の現状となっている事を。そして直ぐに祈りました。数日後、主治医は「田端さんの呼吸困難は心臓にカテーテルで通りを良くすれば良いので念書にサインをお願いします」との事でしたが祈れば祈るほどストップサインが与えられ、私は同意しませんでした。後になって呼吸困難の原因は、肺炎からの菌が胆のうに広がり、点滴がその目的の為に取り替えられた日から高熱は消えてゆき、呼吸困難も少しづつなくなりました。心不全でなかった事が証面されました。カテーテル検査にストップサインをはつきりと出して下さった主なる神様を喜び感謝いたしました。その完璧な御判断にひれ伏す思いが致します。この間、食事も取れず点滴のみで主人の身体は衰弱がひどくなり瘦せて顔色は青ざめておりました。しかし何故か私の心には主の平安が有りました。主人の目に入るところに額に入ったイエス様の絵を置かせていただいたのは幸いでした。(つづく)

シオンフルゴスペル・チャーチ

田端良恵

「再掲載の経緯とお詫び」

前号の《四国だより》では、田端先生からの手書きのお手紙の文章をA1に読み込ませ原稿としましたが、その際、先生のご了解を得ない語句の入れ替えや修正内容等がそのまま活字となり掲載されてしまいました。ご執筆いただいた田端先生をはじめ関係する皆様に深くお詫び申し上げます。今後は、複数のスタッフで確認するなど再発防止に努める所存ですので、ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。(教会事務所)

## 《今日のお知らせ》

○レントのご挨拶とイースター献金袋を状差しに配布しました。

○定例役員会をカナルルームで行います。役員の方はご出席ください。

## 《教育奉仕委員会より》

礼拝後、短く交わりの会をいたします。讃美歌とレントのご挨拶をお持ちになって地下ホールにお集りください。

## 《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

## 《シオンの会より》

二月一八日(水)一〇時三〇分〜一二時シオンの会を第二第三シオンルームで行います。(オンラインも併用します。)

テキスト「使徒言行録を読もう」p.七三 一〇天からの光に打たれたパウロ(九章一節〜一九節a)を読みます。新しく参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。  
〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和  
します。

【詩篇二十四篇】ダビデの詩。賛歌。

地とそこに満ちるもの

世界とそこに住むものは、主のもの。

主は、大海の上に地の基を置き

潮の流れの上に世界を築かれた。

どのような人が、主の山に上り

聖所に立つことができるのか。

それは、潔白な手と清い心をもつ人。

むなししいものに魂を奪われることなく

欺くものによって誓うことをしない人。

主はそのような人を祝福し

救いの神は恵みをお与えになる。

それは主を求め人

ヤコブの神よ、御顔を尋ね求める人。

城門よ、頭を上げよ

とこしえの門よ、身を起こせ。

栄光に輝く王が来られる。

栄光に輝く王とは誰か。

城門よ、頭を上げよ

とこしえの門よ、身を起こせ。

栄光に輝く王が来られる。

（司・会）

栄光に輝く王とは誰か。

万軍の主、主こそ栄光に輝く王。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「ダビデの子にホサナ」

聖書 マタイ21章1〜11節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「祈りの家を守る」

聖書 マタイ21章12〜17節

説教者 吉村和雄名誉牧師

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 143番 78番

説教 「御名を汚さない誠実さに」

聖書 出エジプト20章7節

説教者 黄允湜牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌	22番	92番
説教	「わたしを憎む者には」	
聖書	出エジプト記20章4～6節(旧約 P.126)	
司式	山下 純一 兄	
聖餐司式	黄 允湜 牧師	
説教者	黄 允湜 牧師	

前奏曲「救いは我らに来たりぬ」 作曲者不詳

### ○讃美歌22番

- 1.めさめよ わがたま あさ日にともない  
あしたのほめうた みまえにささげよ
- 2.むなしくすごしし ときをばつぐのい  
ちからのかぎりに みわざをつとめよ
- 3.うえよりたまわる たからをもちいて  
おわりのさばきにかしこみそなえよ
- 4.かくるものをも 主は知りたまえば  
ことばとおもいを ひたすらきよめよ
- 5.めさめよわがたま この日もひねもす  
みくにをのぞみて いそしみはげめや

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

### ○聖歌隊による讃美

「全地よ主をたたえよ」 Thomas Tallis作曲  
全地よ主に向かい ほめ歌うたえよ  
かしこみたえよ 来たりて喜べ  
主こそ神にまし われらを統(す)べたもう  
われらはその民 その牧(まき)の羊  
喜び歌いて みかどを入りつつ  
み名をばたたえて 大庭に来たれ  
主はめぐみ深く あわれみ永遠(とわ)に絶えせじ  
主のまこと固く ときわに変わらじ  
永遠(とわ) ときわに  
アーメン

### ○讃美歌92番

- 1.ああ讃むべきかな わが主よ  
ものみなさかえて かがやき  
のぞみにあふれて うるわし
- 2.つれなきうき世の なかにも  
めぐみのみわざは 生いたち  
なさけのひかりは ひらめく
- 3.ああほむべきかな わが主よ  
なやみのくろくも かかれど  
行くてはさだかに 見えつつ
- 4.ああほむべきかな わが主よ  
みくにのさかえを しめして  
あおがせたまえや みそらを

アーメン

聖餐曲「主に自らを委ねよ (オラトリオ「エア」より)」  
F.メンデルスゾーン

後奏曲「ヴィヴァルディによる協奏曲」 J.G.ヴァルター